

—3回目：事前の工夫—

鳥取大学医学部 井上雅彦研究室

今日のメニュー

- 前回の復習(ほめ方)
- 事前の工夫
- ストラテジーシートについて

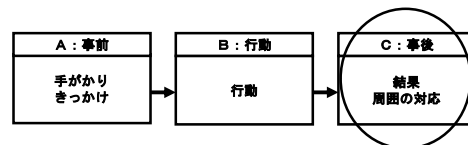


1. 前回の復習



プラスの対応

- 行動のすぐあとにプラスの対応をすることで、その行動が増えたり、上手にできるようになったりする。
- 行動を増やしたいときには、プラスの対応を。
- 上手なかかわりの第一歩は「プラスの対応をすること」。

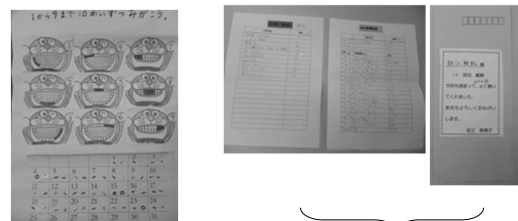


上手なほめ方のポイント

子どもにとってプラスの関わりとなるような上手なほめ方には、次のようなポイントがあります。

- ① よい行動をしたすぐ後にほめる。
- ② 子どもがわかる言葉や表現を使う。
- ③ 子どもにあったほめ方をする。
- ④ 具体的に何がよかったのかを伝える。


トークンシステムの応用



まずはシールをためて、
ご褒美と交換から

将来的には給料へと
つなげていく

2. 事前の工夫



ストラテジーシート

ストラテジーシート ver.3.0 (記入日 年 月 日) (A6)

A: 事前	B: 行動	C: 事後
事前の対応の工夫	望ましい行動	ほめ方・褒めしな活動

(Note: In the original image, the 'A: 事前' box and its corresponding '事前の対応の工夫' box are circled in red.)

事前の工夫

- 子どもにあわせた環境を整える

A: 事前	B: 行動	C: 事後
手がかり きっかけ	行動	結果 周囲の対応

- ちょっとした手がかりがあるだけでも、今までできなかったことができるようになることも。
- 事前の準備・環境調整やモチベーションを高める工夫、実際にやってみるときに達成しやすくする工夫が大切。

事前の工夫をすると・・・

- 「事前」の工夫をすることで、よい流れを作ることができる

A: 事前	B: 行動	C: 事後
手がかり きっかけ	行動	結果 周囲の対応

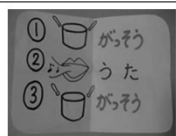
①環境を整える → ②上手に行動できる → ③ほめられる


環境を整える

- ①事前 to 予定を視覚的に示す
- ②指示やルール、すべきことを視覚的に示す
- ③気になるものや苦手なものを事前に取り除く
- ④本人の好きなものや活動を取り入れる
- ⑤適切な行動を始めやすいように、手がかりを取り入れる
- ⑥適切な行動を始めやすいように、道具などを工夫する

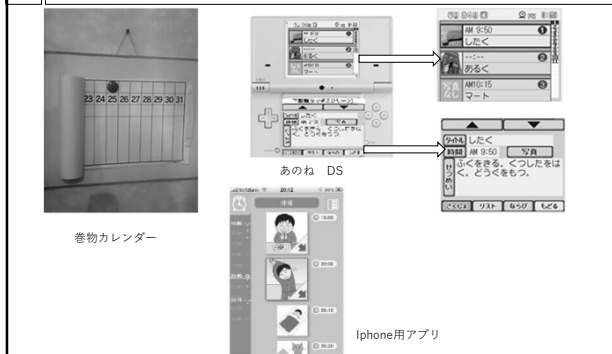
①事前 to 予定を視覚的に示す

いえ
↓
くろま
↓
ヨカトウ
↓
しおくひんうりば
↓
おもちゃうりば
↓
くろま
↓
いえ





その他 スケジュールの例



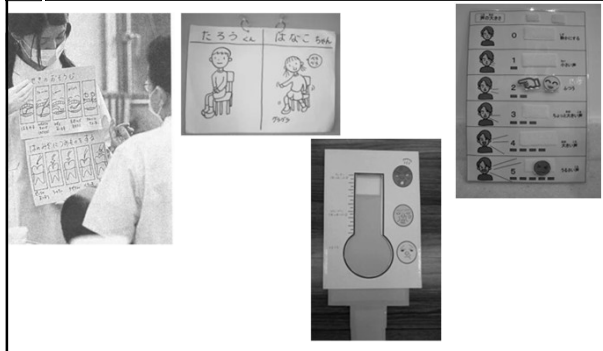
さまざまなスケジュール



②指示やルール、すべきことを視覚的に示す



ルールをわかりやすく...



□しないといけないことをわかりやすく

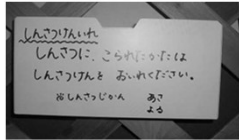


③気になるものや苦手なものを取り除いておく

- 例1: 夕食時にテレビばかり見ていて食事がすすまない。
→ 夕食の時間はテレビを消す。
- 例2: 妹のしていることが気になり、宿題に取組めない。
→ 別の部屋で過ごす。勉強の時間をずらす。
- 例3: 品質表示などのタグの感触が苦手、シャツを着ることを嫌がる。
→ あらかじめタグを切り取っておく。

④ 本人の好きなものや活動を取り入れる

日課が楽しくこなせる工夫



歯みがきをする



帰宅後の日課

⑤ 適切な行動を始めやすいように手がかりを目立たせる

手がかりを置くのにもっとも効果的な場所はどこですか？手がかりを見るときに行動をイメージしてみてください。



⑥ 適切な行動を始めやすいように道具などを工夫する

「ひとりでできた！」を増やすために

子どもが自分ひとりでできることが増えるように、いつもの道具に少し工夫を加えてみましょう。



⑥ 適切な行動を始めやすいように道具などを工夫する



テーブル拭き



カルピス用コップ



なわとびの工夫

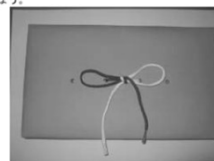


14 ひも結びにチャレンジ

お弁当のフタ、エプロンのひも、椅子のひも

○完成したものや、作業の手順や様子が見えるビデオなどを集めて、見直しを促されるようにしよう

○となりで一緒にしながら、細かく具体的に説明しよう



【ひも結び練習用具】



まとめ

- ・環境を整えることで、子どもが落ち着けたり、学びやすくなったりする。
- ・視覚的に示したり、余分なものを取り除いたりすることは効果的である。
- ・子どもが興味を持てたり、使いやすいように道具を工夫することも有効である。
- ・環境の整え方に決まったルールはないので、一人ひとりに合わせてオーダーメイドで考える。

問い じゃましているのは何？



お手伝いをスムーズにするために直すとい部分・工夫できる部分を考えましょう



問い 環境を整えよう



実施可能かどうかは気にせず、たくさん考えてください。



練習：登園後の準備ができない

まずは流れの確認

①くつをぬぐ→②上靴に履きかえる→③教室に行く→④かばんからファイルを出す→⑤シールを貼る→⑥ファイルをかごにいれる→⑦タオルをかける→⑧制服から体操服に着替える→⑨制服をかばんにいれる→⑩かばんをロッカーにいれる

- ①くつをぬぐ
 - くつ箱のマークの工夫
- ②上靴へ履きかえる
 - 一人ではけない時には靴の後に輪をつける方法も。
 - 左右が分からないときには中敷きの工夫やマークをつける。
- ③教室へ行く
 - 入室したくなる工夫を。
 - 入室して何をやるのかを示すことも大切。

④かばんからファイルを出す

- かばんから出すものを視覚的に提示しておく。
- ファスナーが一人であけにくい場合には、輪っかをつけたりして持ちやすい工夫を。

⑤シールを貼る

- 今日はどこにシールを貼ったらよいかを明確にしておく。
- シールをとりにくい場合にはシールがとりやすい工夫を（クリップをはさむ、手の甲に先生が貼ってあげる）

⑥ファイルをかごにいれる

- かごにファイルの写真を貼り付けておくなどして、どこにファイルをいれたらいいのかを示す

⑦タオルをかける

- 子どもの顔写真をつけている園もある。
- 自分のかける場所がわかりにくい子どもはタオルかけの端にしておく

動線を少なくするよう工夫を！

⑧制服から体操服に着替える

- 裏表・前後がわかる目印をつける
- 立って着替えることができない子には椅子の用意
- 着替え場所がわかるシートを置くことも有効

⑨制服をたたむ

- 上手にたためない子にはかごにいれたり、かばんにいれるだけでもOK

⑩かばんをロッカーにいれる

- 自分のロッカーだとわかるマークの工夫を。
- ロッカーの場所も考慮するとよい。

3. ストラテジーシートを利用してみよう



行動を具体化する

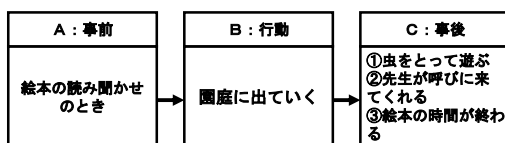
【例】

A君は絵本の読み聞かせが始まると、園庭に出て行って、虫をとって遊びます。いつも加配の先生が迎えにいきますが、「帰りたくない」と言い、そうしているうちに読み聞かせが終わってしまいます。

気になる行動は何でしょうか？まずは口の中に気になる行動を記入してみましょう。

ABC分析をする

- 事前にはどんなことがきっかけにあったのか？
- 事後にはどんな対応をしているのか？
- まずは現在おこっている状態を客観的にとらえることが必要



最終目標を立てる

- まずは気になる行動に対して最終ゴールを設定する
(例)指示に従えないで遊び続ける
⇒指示に従って朝の準備が一人で行える
- 最終目標は完全な自立でなくてもよい。
□ 手順書に従って朝の準備が一人で行える

具体的な目標を立てる

- 最終目標が困難である場合には、スモールステップで段階をおって最終目標までステップを組む。
 - 例:最終目標「一人でトイレでおしっこをする」
 - 現在の目標「おしっこに誘うと便器にすわる」
- 目標を記入するときの注意点
 - 観察可能であること
(例) × 水遊びを味わう→評価が困難
○ 膝までプールに入れる
 - あくまで子どもの目標であること
(例) × 視覚的に手順書をしめす→これは「事前の工夫」
○ 折り紙で鶴がおれる

事前の対応の工夫を考えよう

- おこらなくて済む徹底した環境調整
 - 事前に予定を示す
 - 視覚的に示す
 - 要求レベルを下げる
 - 興味付けをする
 - 約束をする
 - 選択肢を提示し子どもに選択させる
- などです。アイデアを出して考えてみましょう。

次回

- 次回は12月15日(水)16:00~です。
- 事前の工夫について、まだできあがっていない先生は仕上げてください。

